



取材：2025年9月17日



株式会社モーベルマン
丸島 祥平 氏

時間を重ねた家具に 新たな居場所を。

府中で中古・ブランド家具に特化したリサイクル事業をされている(株)モーベルマンさん。

買い取りの際は、その家具の価値をしっかりと評価し、日本一の値段で買い取りたいそうです。

家具店と運送会社が同一の建物内で運営しているのは全国でも稀で、でもだからその迅速な出荷対応もできるそうです。

修繕・メンテナンスを通じた価値の再創造もされているそうで、いろいろなお話をお伺いできてきました！



株式会社モーベルマン

職人の技、時代を超える美しさが宿る
そんな家具に、再び命を吹き込み
次世代へ橋渡しすることを使命と考え、
「価値あるデザインを次世代につなぐ」
ことを理念としています。
循環型社会の実現に貢献しながら、
家具を通じて空間と暮らしを豊かにする
提案を続けていきます。

〒183-0035

府中市四谷6-56-3-3F

TEL：042-306-6418





村野広報委員長

事務所の下の階が運送会社さんなんですね。(モーベルマンさんの会社は建物の三階)

丸島さん

そうなんです。家具屋として、運送会社さんと同じ建物内でやっているというのは、全国でうちだけなんです。とても良くして頂いていて、助かっています。

村野広報委員長

時短にもつながる感じですね。

丸島さん

そうですね。売れたらエレベーターで下に運ぶ、というかたちでやらせて頂いております。

丸島さん

一旦インタビューは会議室でやらせて頂いて、後ほど事務所などもご案内いたします。

村野広報委員長

ありがとうございます。

今回(の取材先)は若手経営者ということで、もう一社は狛江にある谷田部木材さんというところで。

丸島さん

お声がけいただいて光栄です。

パンフレットがまだ作成できていないんですが、ちょうどメインバンクの担当の方に教えて頂いて、多摩ブルー・グリーン賞に応募したときの申込書があるので、こちらも参考にして頂ければと思います。法人会には参加させて頂いたばかりで、まだ分からないことも多いんですが、よろしくお願いいたします。

村野広報委員長

よろしくお願いします。

お仕事はずっと府中ですか？

丸島さん

立ち上げたのは八王子です。

府中に引っ越してきたのが五年前で、こちらの知り合いや友達も少ないというところで、こういう会に入らせて頂いて、知見を広められたらなと思って参加させて頂いております。

村野広報委員長

八王子でも法人会みたいなのところには入られてたんですか？

丸島さん

八王子の時はまだ入ってなかったです。

法人としては四期目で、個人事業主の時期がちょっと長かったので、こういう経営者が集まる会などには参加していなかったんです。

でも法人化を機に、経営の方に目を向けるようになりました、先輩方にお話を伺って、勉強になるな、経営って難しいなと思いつつ、最近楽しくなってきました。





村野広報委員長

どのようなところから仕入れされてるんですか？

丸島さん

一般のお客様からの買取りも受け付けておりますし、片付けの仕事もやっているんですけど、メインはリサイクル業者さんからの仕入れになります。

「リサイクル業者」というものにもいろいろあって、何でも扱う総合リサイクルショップや、アパレル、ブランド品、書籍といった専門ショップ、もしくは廃品回収屋もリサイクル業者のひとつです。そういった「家具を専門にしている業者」から仕入れたものを、弊社の倉庫できれいに掃除し、壊れている部分をリペアした上でネット販売しています。そうして次世代に繋いでいくための、**価値が上がるようなメンテナンス**をして、それを主にネットで販売しています。

村野広報委員長

価値を上げるような修繕ですか。



丸島さん

そうですね、修理であったり埃を落とすだけのようなものもあります。元の状態に戻すような修繕とか。次の方に気持ちよく使って頂けるようなメンテナンスをしております。

村野広報委員長

先ほど、スタッフの方も何人かいらっしゃいましたね。

丸島さん

正社員は四名、アルバイトが十名で回しております。平均年齢は二十八歳といことではなかなか若いんじゃないかなと思っています。

村野広報委員長

二十八歳、それは若いですね。



丸島さん

近くの中央大学の学生さんとかがアルバイトで来てくれています。

僕自身も中央大学出身でして、多摩地域には十八歳の頃から住んでいて、どっぷりとこの辺に浸かっているような感じでやらせて頂いております。

村野広報委員長

じゃあ八王子からここに移転する時も、なんとなくは土地勘があった感じですか？

丸島さん

そうですね。なんとなくこの辺りだなという感じですね。

村野広報委員長

ちなみにご出身は？

丸島さん

静岡の浜松市です。餃子の町ですね。うなぎは庶民の口にはなかなか入らないので、餃子をよく食べてましたね(笑)。

十八歳の時に大学へ通うために上京しまして、卒業して一年間は中古の家具屋さんではたらいでいて、それから独立して個人事業主として始めたという感じです。

大学入学した時は法学部で、法律を学んで弁護士になろうと思って上京したんですけど、卒業するころには中古家具をやりたいなと思っていました。



村野広報委員長

それはもともと好きなデザイナーの家具が良いとか、何かあつてやりたいと思われたんですか？

丸島さん

やっぱりデザインというか、大きくてデザイン性のあるものって楽しさがあるじゃないですか。

でも家具はリサイクル業界の中では、少し扱い辛いと思われているところもあり、修業時代に「次世代につながる価値のあるものに捨てられてしまうんだな」と思っていました。それと同時に、これはビジネスチャンスにもなるし、廃棄物が減ることによって環境にも良いことだし、これが僕にできることなんじゃないかなと思います。まして創業いたしました。

村野広報委員長

修行中から考えられていたんですね。

丸島さん

そうですね。次の世代につないでいく価値のあるものが集まる会社にしたいなと思っております。まだ僕自身子供はいなくて、事業承継っていうところではないんですけど、将来的にはって思っていますね。

二十四のときに（個人事業主として）始めて、今年で三十五になりました。

村野広報委員長

二十四で立ち上げてすごいですね。

丸島さん

ありがとうございます。

当時は、単なる家具マニアというかデザインが好きだという気持ちが強くて、がむしゃらに始めたんですけど、でも、法人かしてから経営の方に目が向くようになってきました。決算書の内容も、自分で書いたのを自分で理解できてきて、簿記について学んだりとか楽しくなってきたところですね。

大学は法学部でしたけど、やっていたのは財務とかの話ではなく民法などで、簿記などをやり始めたのは法人化してからになります。

村野広報委員長

そうですね。実際に自分でやり始めてからですね、私もそうでした。



丸島さん

そうですね。

自分で仕入れたものがこうなっている、と思うイメージが沸くんです。けど、個人事業主の頃は、まずは家具の知識をつけるのが大事だ、同じような中古家具を扱う皆さんに負けないようにしっかりと勉強しないと、と思っていたんです。

でもその当時、一九六〇年とか七〇年代ぐらいの家具に関する情報はネット上にはほとんどなかったんですね。メーカー名などが分かっても、古くてどんな会社なのかは分からないといった感じだったのを覚えてます。

なので、昔の家具に関する雑誌とか家具のカタログなどを中古で買って、スキャンしてPDF化し、検索できるようにして勉強しました。その内容を商品説目に落とし込んだりして販売していました。



村野広報委員長

古い雑誌とか本でしっかり勉強されたんですね。PDFにもして、すごいですね。

丸島さん

ありがとうございます。

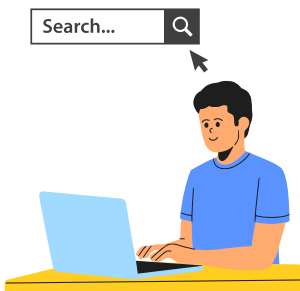
それを他の業者さんや（業界の後輩たちが参考にしてくれて、知識をもう一回掘り起こしてもらえば、もうなくなってしまう家具屋の想いなんかも引き継がれていくんじゃないかな、と当時は思っていました。

やっぱり今は、新しい商品や見たことない商品が入ってきたら、僕もそうですし他の業界の方々もネットを使ってどういう商品なのか調べるので、ネット上で他の業者さんがその文章を使って出品されていると、自分のを参考にしてももらったんだな、業界全体のレベルの底上げになったなと思ってます。

村野広報委員長

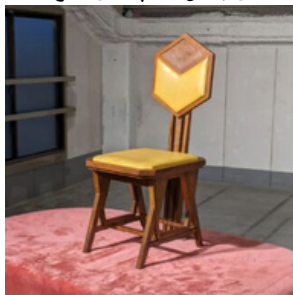
私もそうですけど、今は何でもインターネットで調べますよね。

丸島さん
そうですね。



丸島さん

少し別の話になるんですが、今一九六〇年〜七〇年代に作られた日本独特の形の家具が、海外ではちよつと盛り上がるんじゃないかと思っています。日本の、いわゆるジャパニーズモダンと呼ばれるような、戦後日本のデザインの礎となったような家具たちで、これが日本でも今、再評価されますし、海外でもかなり高値で取引されているんです。



これ（写真）はアメリカの建築家のフランク・ロイド・ライトがデザインした椅子で、旧帝国ホテルで使われていて、一〇年位前にはなんでも鑑定団で一脚二〇〇万の値段も付いたピーコックチェアです。今ではもつと高くなっているんですが、これが今うちには四脚あります。

ただ、これ売ってくれたお客様は価値をご存じなくて、地元ではゴミだと言われたみたいなんです。でもうちで買い取るときは、日本一の値段になるように設定して買い取っています。

村野広報委員長
日本一、すごい。

丸島さん

もちろん利益が出るようにはするんですけど、うちの理念として、価値あるデザインを次の世代に繋ぎたいという思いがありますので、あまり安く買い取ってしまうと、その価値自体を否定してしまうことになるのではないかと考えています。それで評判に繋がって、また良い買い取りができればいいなと思っています。

これ売ってくださったお客様は相続で頂いたみたいで、何も知らずにこれで普通に晩御飯を食べてらっしゃいました（笑）。





村野広報委員長

なるほど、普段使いで。

丸島さん

そうなんです。今はもう旧帝国ホテルも取り壊されていますが、帝国ホテルのあの大きな階段の裏に同じものが展示されています。

当時この椅子は宴会場で使われていて、量産品ではないので数が増えるわけではなく価値も上がっています。

お客様は相続されて何も知らなかったみたいですが、うちの買い取り実績ページを見てお電話いただきました。その翌日には愛知県に行きました。これくらいのフットワークでやっております。



村野広報委員長

素晴らしいですね。

こういうのは、どのくらいまでリペアするんですか？

丸島さん

難しいところなんですけど、こういうオリジナルで全部残っているのが大事な場合もありますので、そういう場合は埃を落として木の部分に栄養を与えてあげる程度で終わらせますし、必要であれば塗装などを剥がしてもう一度塗装しなおす方が価値が上がる場合もあります。

これがまだ体系化されてないの、僕もこの業歴で培ってきたノウハウを、スタッフたちに教えながらメンテナンスをしているというのが現状ですね。

村野広報委員長

やりがいにつながりそうですね。

丸島さん

やはり入荷した状態ではボロボロだったものが、しっかりとメンテナンスをしてあげるとシャキッとした表情になりますから。そうするとやりがいがあるなと僕自身思いますし、スタッフも喜んでますね。まあ、二〇年もすればクタクタになってきますし、子供が飛び跳ねればまたクタクタになるんですよね。

村野広報委員長

素敵ですね。

丸島さん

配達業者さんのエリアもあるので、あまりお見せしたり写真撮ったりできない場所もありますが、これから事務所と倉庫をお見せしますね。

村野広報委員長

よろしくお願いします。

～モーベルマン見学中～





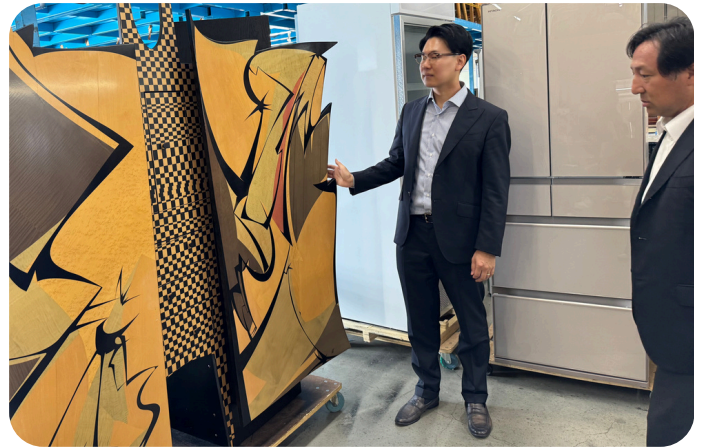
～ ピーコックチェア ～



～ 家具の撮影コーナー ～



～ おしゃれな事務所 ～



～ 高名なデザイナーの
デザインしたクローゼット ～

丸島さん
これはうちが「モーベルマン」なので「ドーベルマン」なんです。まだ気づいてくれた人はいないですけど（笑）。

村野広報委員長
なるほど（笑）。気付かなかったです。そういえばお聞きするの忘れてしまっていました。モーベルマンというのはどういう意味なんですか？

丸島さん
北欧で家具を意味するモーベルという言葉にマンを付けた、僕の造語になります。

村野広報委員長
そうなんです。では、今日はお忙しいところ本当にありがとうございます。ございました。



～ 扉の外で待機中の
ドーベルマンくん ～

丸島さん
と、こんなかたちでやっております。今日はありがとうございます。外までお見送りします。

村野広報委員長
ありがとうございます。この置物も、誰か有名なデザイナーですか？